修羅

橄欖叢書第一三四篇

歌集

修羅

井出一太郎

柏葉書院刊

歌集

羅修

橄欖叢書第134篇

昭和五十二年五月十五日印刷
昭和五十二年五月二十日発行

定価　二〇〇〇円

著者　井出一太郎

171 東京都豊島区目白二―三八―一三

発行者　吉岡一郎

印刷者　中沢盛四郎

発行所　柏葉書院

151 東京都渋谷区代々木四―一七（大賀ビル）
電話　〇三―三七〇―六四七三
振替　東京　三三九二八

国会周辺　　林　正治画

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

修羅目次

昭和四十六年

郵便創業百年　一七
在職二十五年院議表彰　一九
回想　二三
忙閑　二五
急ぎ旅　二八
立秋　三一
山居清閑　三四
古寺廃園　三七
郷関秋色　三九

昭和四十七年

還暦迎春　四五
家郷新年他　四八
ニクソン訪中他　五一
酒酢とならむ　五四
春　雪　五七
尾春首夏　六〇
新聞歌壇　六三
総裁選挙　六五
結婚式にて　六七

緑蔭抄　六八
立山周辺　七一
信州入り　七六
宴とそのあと　七七
稲　架　七九
総選挙ノオト　八〇

昭和四十八年

歳末年始　八七
浅間山噴火　八九
春寒料峭　九二
日向路にて　九五

雑　詠　九八
或る友人の身を　一〇一
日枝紬工房に松井姉妹を訪ふ　一〇四
山荘小閑　一〇七
信濃秋色　一一〇
連休帰郷　一一三
ハンガリー所見　一一五
霜　夜　一一八
悼愛知揆一君他　一二一
昭和四十九年
年末歳始　一二五

春　雪　一二八
遊説途上　一三一
晩春雑什　一三四
山中無暦日　一三七
松尾鉱山跡　一四〇
山と海と　一四三
政界妄語　一四六
時局詠他　一四九
斜山樵舎詠　一五二
小海線車中　一五五
山荘深秋　一五八
政権の座　一六〇

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

記者会見　一六四

昭和五十年

休日閑ならず　一六九
弥生抄　一七三
春愁　一七四
身辺日常　一七六
梅雨空　一八一
惜身　一八四
山荘入り　一八七
祖母百歳寿　一九〇
身辺拾事　一九三

身辺喞つこと多し　一九六
回顧一年　一九九

昭和五十一年

年頭眼疾のため入院　二〇五
眼疾妄想　二〇八
早春賦　二一一
望郷　二一四
修羅道　二一六
身辺のことを　二一九
再び日枝紬工房を訪ふ　二二三

戦没者追悼式即事　二三五
政余雑感　二三八
自問自答　二三一
四国選挙行　二三四
選挙から政変へ　二三七
総理官邸を去る　二四〇
再びを修羅に　二四三
あとがき　二四七

修

羅

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com